

2018年8月28日掲載

## 「ターニングポイント」

先日、山口県で行方不明の男児を見つけた70代の男性ボランティアが時の人となった。さまざまな角度からメディアに取り上げられているが、私は「上に上がるのが子どもの習性だと思った」という言葉が印象に残った。この男性のこれまでの経験や新しい観点があつたからこそ、男児が見つかったのだと思う。まさにそれが男児発見のターニングポイントになったのだろう。

振り返ると、自分の人生でもいくつかのターニングポイントがあつた。私が大学であまりなじみの無い「地理学」を選択したのは、高校時代の地理の先生の影響があつたからだ。面接で進路指導担当の先生が「経済学部や英語の学科が就職に有利だぞ」と一般論で説明してくれたのとは対照に、地理の先生は「あなたのやりたい道に進んだらいい」と背中を押してくれた。

地理学を学んだ私は今、教育の仕事に就き、地理の普及のためにイベント活動なども行っている。地理を通じた人脈も多々広がった。

仕事仲間と今秋に開催する講座のテーマも「ターニングポイント」だ。周りを見ると状況や環境に振り回されている人を多く見る。だからこそ、自分次第の人生を創り出し、未来を手に入れてほしい。その一歩を踏み出すきっかけになることを願っている。

北海道も今年、命名150年という節目、ターニングポイントを迎えた。さらにこの先100年、150年と、持続可能な社会となるよう、私も仕事を通じて貢献していきたい。

(毎日新聞より)